

わなぐら 和名倉百年の森



2002.3.31
会報第3号

発行: 百年の森づくりの会 埼玉県さいたま市太田窪2034-1 TEL 048-885-6697 FAX 048-882-0245 e-mail: naitoh@saitama-j.or.jp

植林ツアーで大滝村を活性化する	1
内藤勝久	
百年の森づくりの中長期計画	2
高岡正彦	
ブナやミズナラの苗作りに向けて	3
市川嘉一	
わが山、むかしいま	4
大滝村歴史民俗資料館長 木村一夫	
千年の森委員会について	5
大滝村「千年の森委員会」山中敬久	
百年の森研究会発足にあたって	6
埼玉大学百年の森研究会	
NPO法人化にむけて	6
書評『雁峠だより』によせて	7
辻 秀幸	
活動報告	8



雁峠より和名倉山を望む(2002年元日)

植林ツアーで

大滝村を活性化する

百年の森づくりの会会長
内藤 勝 久

百年の森づくりが縁で、昨年(2001年)の1月に大滝村の「千年の森委員会」の委員に加えていただき、間もなく植林部会長を委嘱された。毎月1回の会合を重ね、昨年の暮れにその結果を各部署長が中間報告した。それをまとめて村議会へ提言するという。

私の報告の骨子は、「荒川の水源を皆で守る」と言う世論を醸成するために、ボランティアと山林所有者と行政が一体となった有料の植林ツアーを実施することであり、その成否は参加者がまた泊まりたくなるような、大滝村らしいこだわりのある民宿事業にかかっているというものである。

昨年の7月に東北の朝日岳に登ったが、その時に泊まった「朝日鉱泉ナチュラリストの家」が私のイメージしていた民宿に近かった。3Sつまり 清潔(部屋、布団、シート、トイレ)で 食材は地元産そして 親切が行き届き、家内は、「また来たいわね」と喜んだ。料金は山小屋なみであったが、2000円高かったとしても満足したに違いない。

二十一世紀は環境の世紀といわれる。環境は

今世紀最大の地球的テーマである。そのことに気づいていない人はいない。何がしかの貢献をしたいと考えている人はいっぱいいる。しかしどこに行けば良いのかわからない。値段も手頃で夢のあるツアーなら是非参加したいという人も多い。IT革命によりストレスはたまるばかりだが、それを癒すものがない。酒を飲んでも音楽を聴いても充たされないという。登校拒否、家庭内暴力に悩む家庭も多い。このような人たちを同時に満足させるのが植林ツアーである。

木を植えることも楽しいが、植えた木の世話をし大きく伸びた姿を眺めるのも楽しい。1本の木でも子供の夢を育むことが出来る。子供が老人になった時、孫たちに誇ることが出来る。「これがおじいさんの植えた木だ」と。夢があれば勇気が出る。自信がつく。

昼間は植林でいい汗を流す。空気も水も美味しい。宿につけば薪で沸かした檜の風呂が待っている。1日の作業を反芻してとっぷりと湯に浸かる。風呂から上がれば、土地の食材を使った田舎料理。いい汗を流した後だけに食は進み、話は弾む、酒もうまい。マグロの刺身や海老の天ぷら、スーパーで買ってきたようなものはない。みんな地元の食材だから安全だ。味噌も醤油もあの畑でとれた大豆で作った。牛も豚も鹿も猪も全て地元だから狂牛病やラベルの貼替えなどとは無縁だ。テレビもパソコンもない。ストーブの火が赤々と燃え、ほの暗いラン

プの灯が時折風にゆれる。子供たちは疲れてボタンキューだ。ブランデーなどを傾けながら夢を語る。心地よく酔いが廻る。床に入ると、布団はふつくら、シーツの糊もきいてとても豊かな気分だ。今夜はぐっすり眠れそう。

鶏が鬨を告げる。山々から鳥の音が聞こえる。何という爽やかな朝だ。子供たちはもう外で遊びまわっている。こんなに活発な子供の姿を見たことはない。質素だがすべて本物の食材を使った朝食。卵の黄身もふつくらして生命力がある。家ではお代わりしたことがない子がお代りの連発だ。食べたらいれ。ウオッシュレットでしかもピカピカに磨いている。快適快適。便秘気味のOLも大満足。「また来年も来ます。今度は友達を誘って来てもいいですか」。「何しろ希望者が多いので早めに予約したほうがいいですね」。

かくして清らかな心の持ち主が大滝村のファンとなり、植林で出会った若者が結婚し、居を構えて山の仕事に携わる。大滝村が元気になって、山も荒川も蘇り、「水源の森はみんなで守る」という世論もでき上がる。先ずは大滝村らしい民宿を作ろう。

百年の森づくりの中長期計画

植林担当 高岡 正彦

これまでのワーク活動

水をはぐくむ山への恩返しというコンセプトで、山に保水力豊かで、水の浄化力に長けているブナ（広葉樹）の植林活動を目指しました。昭和39年の山火事で多くの森林が失われた和名倉山を活動の中心に考えてのことでした。実際和名倉山を下見して、東仙波山周辺では焼けぼっくりがあるものの、スズ竹に覆われ森林の成長を妨げているようすを観察してきました。いずれ長い年月をかけて森林に戻るのかもしれないが、少しでもそこに手をくわえ、森林の育成に手が貸せればと活動をはじめることになりました。

そして、正式に県の林務課から紹介を受け、大滝村の村有林（和名倉山の仁田小屋尾根周辺）で作業することになりました。村有林は、林業のかげりから、管理が行き届かず作業道も廃道になってしまったので、まずはその作業道を切り開くことにしました。

切り開いて分かったのですが、村有林には山火事後、標高1400mから2000m付近まで40万本の落葉松を植え、1000mから1200m付近は分収林としてスギを植えてありました。いまだは、それが結構成長していました。

さて、この作業道が貫通したのが、4年目の2000年秋。そして今年度21世紀を迎え、第1回の植林を計画。植林したのは仁田小屋尾根の標高15

00m落葉松林の隙間でスズ竹の生い茂る2aほどのスペースに白ブナを13本植林しました。ブナの苗木は、東大演習林で育てている秩父産の白ブナです。

今後のワーク（植林）計画

これまでも、ワークの他に動植物の観察を行ってきましたが、これからも逐次観察を続け、長い年月をかけて植林をした方がよいと考え、次のような長期計画を立てました。

一、毎回のワークで、村有林の落葉松の隙間（2aほど）に10〜20本程度広葉樹を植林する。植林地は当面、第1回植林地（一步の森1500m）から標高を50mずつ上げ、1750m付近までとする。植林した苗木の根付き具合を観察しながら、よりよい植林を目指す。

二、現在の作業ルート（仁田小屋尾根）は足場が悪く、傾斜がきついので、作業しやすく整備する。

上記の計画の他に

動植物の観察

ドングリ拾い、苗作りの研究

植林活動の学習

仁田小屋の改修

作業小屋の建設

荒廃地2000m付近への植林についての研究
川又からのルート、二瀬からのルートの整備
等の活動も時期を検討して随時行つ。

わが山、むかしいま

大滝村立歴史民俗資料館長

木村 一夫

本来ならば、和名倉山の歴史等書けばいいのかも知れませんが、「和名倉百年の森」会報創刊号巻末に概要を載せていただいたので、和名倉山に係るある昔話を二三申し上げましよう。

最初に狼の遠吠えを聞いた話。

私が子供の頃、近所の古老（明治元年生まれ）が、青年時代下駄屋の親方に連れられて、幾人かと大洞谷へ、下駄の素材（川胡桃材）を伐採し、「こつら作り」に入山した。

掘立て小屋での生活。夕暮れになると、狼の遠吠えが尾根や谷を渡って聞こえて来た。寂しさと怖さで震えたとのこと。狼は当時から

三峰神社の御眷属

として崇敬していたので、神様のお使いの声を耳にしたのだから恐れおののく筈です。それにしても記録文には明治中頃まで狼は生存していたと書かれているの



で、狼の話は今でも私は信じています。

次は母から「ちよくちよく」（これは方言で「時々」のこと）聞いた話。

昔狩猟は山村では最大の現金収入だったの
で、男衆は麦播きもそこそこに切り上げて、
食料や寒さしのぎの衣類等の荷物を背負って
大洞谷に入った。老人や女子供がまだ終わっ
ていない麦播きをすませた。猟師達は岩かげ
に落葉を集めて寝ぐらをつくり猪鹿熊等の獲
ものを追った。獲ものは三峰の取次所まで背
負い出し、食料を補給して山に急ぐ。その当
時熊一頭射てば胆が金の目方と同じ値段で売
れたと言う話だった。猟師達は歳末（「とし
とり」）ぎりぎり在家へ帰って来たものだっ
た。

次は私の体験です。

昭和二十二年国有林が下戻裁判
勝訴により村側の所有となり、当
時戦後の復興のため木材の需要が
多く、昭和三十年代に和名倉山の
村有林の払下げによる業者の伐採
が盛んに行なわれた。私も業者に
頼まれ、立木調査に入山した時の
ことです。二瀬尾根（ヒルメシ尾
根）から登り、原生林内に差しか
かった時先頭の人が、ねずみに似
た小動物をみつけて足で軽くおさ

えて小声で「変なねずみ」と言うと、次の人

は「早く逃がせ」と言う。山仕事に携わる人
は、誰でも皆山の神様のお使いはオコジョだ
と聞いてはいるが本物を見た人は少ない。

「もしかしたらオコジョじゃないか」と誰も
が感じた。最後尾からすこし遅れて登って来
た親方の足の裏側から背中へのぼり襟首から
体へはい込んだので、何事が出来たのかと大
声をあげて支度を脱ぎ捨てた。さあ大変、山
の神様のお使いを足げにしたと親方に怒られ
たこと怒られたこと、皆で山の神様に深々と
頭を下げた。

最後に和名倉山について。

五万分の一の地図には、白石山とあるが地
元の人は余り白石山とは言わない。私が子供
の頃は大洞山と言ったおぼえがあるが、雲取
山から笠取山方面への連山の中に大洞山と地



千年の森委員会について

大滝村「千年の森委員会」

委員長 山中敬久

図にある。平成十年に開通した雁坂道のトンネル手前から見える広大な山塊も、三峰神社周辺から眺める山も同じ和名倉山で、奥秩父二千米級の山々で他都県市町村と境を分けあっていないので、村内にどっぴかりかまえて居座る和名倉山こそ大滝の山です。支流の滝川へは八百谷を合わせた槇の沢、金山沢、曲り沢、久渡の沢等、荒川へ直接落ち込む大除沢、そして支流大洞川には井戸沢、惣小屋沢、松葉沢、仁田小屋沢、市の沢、和名倉沢、等々数多くの沢を集めて荒川を合流する最大の源流の山です。

戦後復興の為原生林を伐採し、山容をずたずたにしましたが、国の再興にお手伝いし、村の公共施設に役立ち、経済を豊かにした山、和名倉山。往古の面影はないが何時の日か白神山地に勝るとも劣らない立派な山容になりますよう祈念しつつ、また植栽事業にお骨折りの戴く「百年の森づくりの会」会員に深く感謝申し上げます。

千年の森委員会は、平成12年11月に村長の諮問委員会として誕生致しました。

大滝村の総合振興計画に関する全員協議会で、私とある議員との議論が発端となって、「そういうことを言うなら、お前が中心となつて具体策を出して見る」と言うことで、偶発的にできました。諮問委員会と言っても、全くのボランティア。交通費も出ない中で、村外から6名の方が委員になって下さいました。偶然にも、全員が大滝を良く知っており、環境に理解のある方ばかりでした。事務局は役場、助役さんのほか、職員2名が付きました。委員は次の方々です。

内藤 勝久(植林部会) 百年の森づくりの会
島崎 武重朗(山と溪流部会)

秩父の未来を考える会
竹前 恵造(木材利用部会)

タケマエシステムコンサルティング取締役
仁多見 俊夫(エコツーリズム部会)

東京大学農学生命科学研究科助教
酒井 秀夫(秩父演習林と大滝村)

東京大学大学院教授 秩父演習林長
南 良和(民俗、文化部会) 写真家

山中 要三郎(樹木葬による大滝村の活性化)
大滝村村議会議員

会議は、ほぼ月一回、平成13年9月まで10回開きました。

数回の会議から生まれた共通認識は、「大滝の豊かな自然環境を保全するために、環境条例をつくる必要がある。これを基本に森林、山、川、文化財、習慣等の大滝の財産を活用する方策を探る」と言うことだったと思います。

平成14年2月に中間報告書を村長に提出致しました。この間に、提案をもとに具体的な動きを始めている分野もあり、村も予算を計画しています。

仁多見先生が、この委員会で発表した論文「エコツーリズムと精密林業による森林資源の高度利用 地域と大学演習林の連携」が契機となつて、竹前さん、山林関係者が中心となり大滝村山林振興協議会を結成し、作業道の開設や製材所、建築家、工務店とのネットワークづくり等の動きになっていきます。島崎さんは、商工会青年部と話し合いを重ね、大滝の原種である秩父イワナの養殖とキャッチアンドリリースコースの設定、等意欲的な提案を出しています。内藤さんは植林ツアー、酒井先生は、演習林を軸とした大滝村との連携によるガイドツアー、要三郎さんは、三峯神社を中心とした樹木葬、南さんは、プロの写真家の眼による大滝の山村文化の位置付けと、多岐にわたり手応へのあるものと、なっております。今後の村の対応に期待すると共に、皆様方にもご意見を寄せて頂きますことをお願い申し上げます。



大滝村立歴史民俗資料館

大滝村の山村文化を伝える貴重な資料が展示されています。殊に、和名倉山は、厳しい山村の暮らしぶりの中で、「稼山」として重要な役割を担ってきたことが紹介されています。

〒369-1901 大滝村大字大滝4277-4
TEL 0494-55-0911

百年の森研究会

発足にあたって

埼玉大学百年の森研究会

我が百年の森研究会は、百年の森づくり活動にとどまらず、幅広い視野で活動していくと考えています。

和名倉山山頂まではまだ素人の足では登りにくく、植林活動を広く呼びかけて行っていくにはまだ準備が必要であるのが実情です。そこで山頂までは行かないまでも、滝沢ダム周辺や荒川流域において植林や緑化活動をしていくことを考えています。5月頃の予定で秩父滝沢ダム、サイト内での植林緑化事業を計画中です。植林や緑化に当っては、地域の自然環境に適するよう手法や内容を吟味し、また、地域住民の方々にも参加を促して、実際に自然に触れてもらうことで、植林・緑化の意味・価値を理解してもらいたいと考えています。そして我が研究会は「環境学習」についても注目しています。自然から多くを学ばせて頂いている我々としては、地域住民の方々にも自然に興味を持ってもらい、自然環

境保護活動の意味を理解してもらうよう、手助けをしていきたいと考えています。具体的には4月21日(日)に荒川河川敷、秋ヶ瀬で開催される「サクラソウ祭」にて、「サクラソウ・エコツアー」と題し、特別天然記念物の「サクラソウ自生地」を実際に来場者と歩き、草花や生態の説明を行い、自生地について理解して頂くという企画です。

また、ますます国際化が進む現代において、環境の分野でも国際化が進んでいます。実社会でも海外での活動も盛んになってきています。そこで我が研究会としては海外に目を向けた活動も考えています。我が研究会の指導教官である佐々木教授は、タイのコンケン大学と交流があり、現地の生活と自然環境との関わりなどを学ぶ海外研修旅行を昨年行いました。今年も行つ予定です。さらに他のNGO・NPOの活動へも参加することで幅広い知識と経験が得られるのではないかと思っています。

NPO法人化にむけて

現在私達は「百年の森づくりの会」のNPO法人化にむけて準備をしています。NPO法人とは、特定非営利活動法人の略称で、その名称のとおり「非営利」、つまり団体が利益をあげた場合、その利益を会員等に分配するのではなく、団体の掲げる目的を達成するための資金として使用する団体のことです。また、法人格を取得することができます。法人格の取得による利点は次のようなものです。

まず、県からの認可を受けることによる、社会的信用の向上。そして、県を介して情報公開をすることにより、社会との接点ができ、私達の活動内容を広く知ってもらうことができます。その他にも数々の利点がありますが、これらの利点に伴い、情報公開や行政の監督を受ける等の義務が生じてきます。しかし、NPO法人化による利点は、それをさらに上回るものです。「百年の森づくりの会」のNPO法人化は、まだ準備段階ですが、一日も早く認可を受けられるよう頑張りたいと思います。

野原麗良

書評 『雁峠だより』によせて

百年の森づくりの会・会員 辻 秀幸

本書は深い森、錦秋の林道、岩魚の渓谷を秘める魅惑に満ちた奥秩父のほぼ中央にある雁峠に建つ山荘の始末記でもあるといえましよう。

山荘に宿泊し個性をきらめかせる人々、縦走路を通り過ぎていく登山者、夜の深い闇へのおののきなどが、ふだん着のままの視線で語られ一息に読むことができました。自然体の文章に、つつましい著者の人間性に触れていると、秩父の山々や静かな山小屋がしみじみ懐かしく想われます。

というのも、私の登山の経歴は稜線や尾根を歩き景色を眺めて満足していた初心の頃もありましたが、ある時から、岩を攀りだし、その様相がガフリと変わりました。そして、二十代、三十代の青春時代は全くこの一色に染められていました。なんとこの個性への傾倒であったことでしょうか。あの頃、サラリーマンとして夢中で仕事をし、すれ違いの恋もして、一つ一つ思い起こせば青春とは人の一生の中で嵐の時代だとせざるを得ません。

私は岩壁の登攀を主要な活動にしている山岳会（アッセントクラブ）に入会し、間もなく谷川岳一の倉沢を攀りだし、演歌の歌詞のようにな上野発の夜行列車を土合駅でおりて通いました。な



にせいの倉沢だけでも登攀ルートがザッと数えて四十本からあり、人より一つでも多くトレーズすることに夢中でし

た。しかし、攀ることは事故や死と対峙することでもあり、この危険の感覚の向こうに登山の重々しい意味づけをし、自己満足の快感を味わっていました。

夏から秋が過ぎ、冬の雪と氷のテラスのビバークはつらく、雄々しくもあり、一の倉沢の隣の幽の沢では雪崩に飛ばされてピッケルは折れ、ザックは失い、脇腹や脚に痛みを負って悄然として林道を戻り、しかし生と死を分ける問いに解はなく、いつまでも不明のままです。生は僥倖であり、死は不幸とし神の手にゆだねる他ないようでした。

時が経ち体力が衰え、二十キロは背負えず、体のあちこちに痛みが潜み、そして青春という熱病が去っていった今、私にも一冊の本『蒼空より』が生まれました。それを書き終えても、山で起きる事故で生と死を分ける謎は判らないままでした（それを問う内容ではありませんが）。そんな時、『雁峠だより』に出遭いました。読んでいるとそのまま著者の文章が内に入ってくる。面白い文章があちこちに咲いているのを味わいながら頁を繰っていくのは楽しい。高山植物を一輪ずつ眺めていくようです。

すでに荒ぶれた青春が去り、花や山道や人々や小屋に目を向けて、再び新しい山と付きあっているころかと思っています。そこに『雁峠だより』がありました。末尾に味わい豊かな文章をいくつか掲げたいと思います。

…その晩、苦勞してホヤを自分で作ったランプに初めて火を灯した。ガラスに反射した光がはつと部屋中に広った。山小屋にはやっぱりランプの灯がふさわしい。その晩は、山荘はじまって以来の豪勢な宴

を催した。アルコールをほとんど飲めない私もコップ一杯ものワインを飲んだ。楽しい語らいなかで、何故こんななままでして、この小屋を整備しているのかと訊ねられた。（三七頁）

…昨年は、一人でいると淋しかったり恐かったりすることもあったが、今年はそんなこともなくなった。いよいよ仙人の境地に迷い込んで来たのかなあと自問しながら越し方に思いを巡らす。（四二頁）

…話が盛り上がって一番若いH嬢の好きな人の話にまで発展した。好きであれば好きだと意思を伝えるべきだと私たちは進言したが、「いえないわ」と恥ずかしそうにしていた。彼女の言葉に想いの深さと清純さを感じられた。傷つくことを恐れてはいけない。彼女の想いが相手に通じることを願う。私も過ぎ去った青春のひと頃を思い出していた。（五一頁）

【参考文献】

- 加藤司郎著 『雁峠だより』 はみ出し役人の山小屋再建記 白山書房 03-3485-1309
- 辻 耕也著 『蒼空より』 文藝書房 03-3258-7284

* 『雁峠だより』は、その続編『山ありて幸い』とともに『百年の森文庫』に所載されております。また、辻氏の『蒼空より』は、丁寧に重ねられていく文章の中に山をめぐる人々の生き様がひとつひとつ物語られ、山岳小説の高い到達点をなすものです。殊に、冬の谷川岳一の倉沢の登攀の息詰る描写は、圧巻です。ぜひ、一読ください。

平成13年度下期の活動報告

第9回百年の森づくりワーク実施

10月26日(金)から28日(日)に、役員・会員を含め18人の参加をいただき、第9回のワークを実施しました。

今回は6月に植林をした「一步の森」の状況把握、二瀬尾根のルート調査などを実施しました。

「一步の森」に植樹した13本のブナのうち3本は枯死したが、残り10本は新芽がついています。また、二瀬尾根ルートについては、長期計画の中で整備をすすめていく予定です。

百年の森交流会 in 埼玉大学大学祭(むつめ祭)

11月23日(金)に埼玉大学内「百年の森テラス」において、会員の皆さんとの交流会を開催しました。

当日は30名の参加をいただき、「百年の森づくりの会」の活動状況の展示および和名倉山のワーク活動のビデオを放映し、親しく懇談をしました。

平成14年度上期の活動計画について

「荒川水源の森づくり植林ボランティア」開催

開催日 平成14年4月29日(月)みどりの日

場所 大滝村大血川上流太陽寺の域内

集合地 秩父鉄道三峰口駅(現地まで送迎マイクロバスあり)

10:00までにご集合ください。

スケジュール

10:30 開会

11:00 作業開始

12:30 昼食・交流会

14:30 終了

作業内容 ミズナラ・ブナなどの広葉樹の植栽

参加費用 1,000円

内容は別紙チラシを参照。

皆様の参加をお待ちしております。

平成14年度第2回通常総会開催

日時 平成14年5月19日(日)午後2時から

場所 大宮ソニックシティビル4階 市民ホール

スケジュール

14:15~15:00 第2回通常総会

15:00~16:30 記念講演会

「循環型社会を支える森と水と農林業」

- エコロジーとエコノミーの共生 -

埼玉大学経済学部教授 西山 賢一氏

16:40~18:00 懇親会(3000円実費負担)

詳細は別紙チラシ参照。

是非ご出席下さるようお願いいたします。

第10回百年の森ワーク実施

開催日 平成14年6月7日(金)~9日(日)

活動 第2回の植林を実施

10本の苗木を植樹

ルート整備

参加ご希望の方は、下記事務局まで、電話、FAX、Eメールにてご連絡ください。

参加者には後日詳細をご案内します。

[連絡先]

〒336-0015 さいたま市太田窪2034-1

百年の森づくりの会 会長 内藤 勝久

TEL 048-885-6697

FAX 048-882-0245

E-mail naitoh@saitama-j.or.jp

現会員(会員番号 氏名 住所)2002.3.15現在

306 川島光弘 さいたま市/307 芦川芳雄 足立区/308上野 擴 羽生市/309 丹下博之 さいたま市/310 坪山淑子 さいたま市/311 岩波節子 蕨市/312 岩波靖夫 蕨市/313 綿貫均 さいたま市/314 日暮泰美 さいたま市/315 大武昭雄 さいたま市/316 小泉泰通 足立区/317 瀬島 孟 さいたま市/318 後藤慎一 さいたま市/319 平田寛 さいたま市/320 深沢郁隆 さいたま市/321 大倉 浩 さいたま市/322 小野寺昭夫 さいたま市/323 高橋 歩 両神村/324 竹内 均 越谷市/325松本善一 さいたま市/326 海老澤宏 渋谷区/327 金子 宜淳 さいたま市/328 江部清司 八潮市/329 石川君子 熊谷市/330 星野栄一 さいたま市/331 北林 堅司 所沢市/332 増子典男 さいたま市/333 深沢弘巨 足立区/334高橋断 藤沢市/335 高嶋延壽 練馬区/336 清水安衛 伊勢原市/337島津 進 府中市/338 小林洋史 我孫子市/339 小澤清之 町田市/340 井上雄二郎 平塚市/341 芦野洋雄 横浜市/342 吉村 洋 さいたま市/343 栗原 毅 さいたま市/344 菊間洋一 足立区/345 矢筈野武久 所沢市/346 松川稔 羽生市/347 鈴木康之 川越市/348 安江 操 久喜市/349 高橋一恵 久喜市/350 奥田義 さいたま市/351 池田典義 神奈川県大磯町

会員募集しています。

年会費 個人会員 2,000円

法人会員 10,000円

郵便振替 00140-0-555239 百年の森づくりの会

銀行振込 あさひ銀行 南浦和支店

普通預金口座 No 3835666

百年の森づくりの会 会長 内藤 勝久

新年度会費納入についてのお願い

新年度会費振込票をご用意いたしましたのでよろしくご願ひいたします。また、現会員が会費納入場合は、納入年度を明記してください。ご不明な方は会計までご連絡ください。

会計担当 東 克明

TEL 048-666-7053

E-mail k-azuma@pop16.odn.ne.jp

編集後記

会報第3号をお届けします。会も2年目を迎え、多くの課題と展望を持つことができました。今回の会報は多くの方々から原稿をお寄せいただきました。環境問題に対するコンセンサス作りの一助になることを願っております。今後とも、会員の皆様の意見が反映できる会誌になるよう努めてまいりたいと思います。よろしくご願ひいたします。